



特集

「小6②公立中高一貫校模試」

中学入試レポート

間近に迫った 2020 年大学入試改革にも適応する、

公立中高一貫校入学者選抜 「適性検査」問題を解く力

今回は、首都圏中学模試センターが実施してきた、小6・小5「公立中高一貫校模試」。各公立中高一貫校では、すでに学校説明会を始めとする各種の学校公開行事が行われ、いよいよ本番間近を実感させる時期となった。それは同時に、受検生と保護者にとっては、それぞれの“入学志望校＝受検校を決定していく時期”ともいえる。また、受検生にとっては、志望校の選抜
考查問題＝適性検査問題への対策学習が本格化する時期でもある。いま、受検生は、その受検
準備及び学習に寸暇を惜しんでいることだろう。

同時に、この時期にあたって保護者がやらねばならないこと、それは二つある。一つは受検生の受検勉強のサポートと心身両面のケアであり、二つには受検生の小学校卒業後の進路を改めて考え、わが子にとってのベストの進路を選択することである。

2020年の「大学入試改革」は間近に迫っている。受検生が大学入試に挑戦する時期は、日本の教育が大きく変化する、まさにその真ただ中である。今回のレポートが、そうした変化をも意識して、受検生にとって最善の進路選択をするための参考になれば幸いである。

首都圏模試センター

公立中高一貫校の「適性検査」 問題対策の学習で身につけられる力

本題に入る前に、まず確認しなければならないことがある。それは、入試の合否を分けるとよくいわれる“天下分け目の夏休み（関ヶ原）”、過ぎてしまった夏休みの反省はできているか、ということ。当然だが学習に関しての反省である。今日は9月23日（月・祝），“もう”約1か月も過ぎているのに、との声も聞こえてくる。が、だからこそ現在（いま）なのである。

「適性検査」問題は教科別出題ではなく教科横断型出題とよくいわれる。ならば教科ごとの学力はあまり関係ないとも。しかしそれは否である。教科横断型出題であるからこそ、より一層の教科別学力が問われるのだ。教科ごとの基礎学力及び応用発展力＝獲得された学力を駆使して、課題を発見し解決する思考力・判断力・表現力等を見る。それこそが「適性検査」問題なのだから。

反省のポイントは、

- ①（保護者とともに）計画した通りに過ごせたか？
- ②「（第一志望校が決定しているなら）この学校に入学する」ための学習ができたか？
- ③（通塾生がほとんどと考えて）塾での夏期講習を中心とする学習はどうだったか？
- ④入学者選抜まで、及び選抜を乗り切るための体力・精神力は培えたか？
- ⑤基本的には、受験勉強の基礎作りは夏休み終了までにだが、基礎・基本はおさえられたか？基礎固めはできたか？
- ⑥苦手・弱点教科（分野）は克服できたか？

なぜ基礎・基本がそれほど重要なのか…、学力は積み上げていくもの。“基礎・基本力”の上に“応用・発展力”が積み上がるからである。本番では、基礎・基本レベルの問題で確実に得点をあげなければ

合格はおぼつかない。“点は点”、難問は誰にも“難問”なのだ。合格最低ラインは60～70%、満点は不要だし、とれないと考えるべきだ。

反省（反省材料として、今回の「模試」の結果資料は非常に有益なはずだ）をふまえて、今後の学習のあり方を再検討しよう。何が足りず、どう補えばよいのか？

結果の全体偏差値・合格可能性のみを見るのではなく、重視すべきは正答率・視覚化された「思考コード」上での正答率と偏差値である。正答率50%以上の問題は確実に正解できるようにしたい。そのためにも、第一志望校の入学者選抜日から逆算し、算出された日数のいく日かを、可能な限り早急に、何よりも“基礎・基本力”をしっかりと身につけるといふ観点での学習にあてて欲しい。より言うならば、合格可能性のアップのために、“まだ間に合う”の気持ちで、弱点と思われる領域の基礎固めから再起動である。

その後の学習スケジュールは、受験生の学力にもよるが、基礎力再養成～応用・発展力養成～志望校過去問に取り組む～入学者選抜直前の学習、へと進めたい。さらにもう一つ重要なこと、それは弱点の克服だけではなく、得意教科の得点力アップも忘れずに、ということである。

さて、本題に入ろう。全国初の公立中高一貫教育校＝公立中高一貫校が開校したのが1999（平成11）年。宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校がそれで



今回の『ブレイク』掲載「公立中高一貫校レポート」(No.10)でご紹介している千代田区立九段中等教育学校



特集 間近に迫った2020年大学入試改革にも適応する、 公立中高一貫校入学者選抜「適性検査」問題を解く力



今回の「ブレイク」掲載「公立中高一貫校レポート」(＃11)でご紹介している神奈川県立相模原中等教育学校

ある。その後、首都圏（ここでは東京都・神奈川、埼玉、千葉、茨城各県）では、2003（平成15）年に埼玉県立伊奈学園中学校が開校され、その後2017（平成29）年4月までに計24校（東京11校・神奈川5校、埼玉2校、千葉3校、茨城3校）が設立され、今春（2019年）には埼玉県のさいたま市立大宮西高等学校を母体とする大宮国際中等教育学校が開校した。今春開校した大宮国際中等教育学校や、それ以前に開校した都・県立各校の例を見るまでもなく、それら首都圏計25校の公立中高一貫校は、いずれも各地域において大きな人気を集め、人気校として認知され、毎年多くの小6生が受検に挑戦している。

例えば、大宮国際中等教育学校は、首都圏の公立中高一貫校初の「IB（国際バカロレア）教育プログラム」を導入する学校として大きな注目を集め、男女計160名の募集定員に対して男女計1,010名もの応募者（実受検者男女計996名）を集めた。また、首都圏公立中高一貫校全体の今春の入学者選抜応募者・実受検者数は、応募者18,420名（実受検者17,707名）となり、そのうち合格者は3,146名であった。実際に受検した小6生のうち、14,561名は、残念ながら志望した各公立中高一貫校入学の夢はかなわなかったことになる（単純実倍率5.6倍）。この数字は、従来の国立・私立中学校入試と比較しても、厳しい“選抜”といえるだろう。

しかし、その厳しい“選抜”の現実を見ても、毎年多くの受検生と保護者が公立中高一貫校入学を夢見て、受検を志す。それは、その受検が受検生のこれからにとって決してマイナスにはならず、逆に多くの点でプラスになることを感知しているからである。

そのひとつが、各公立中高一貫校の「適性検査」＝入学者選抜に合格することを目標として学習を進めることによって身につく力（あえて人間力と呼ぼう）は、現在の小6生が改革6年目の当事者となる2025年以降の、本格的な「新しい大学入試」への対策にもつながる力であるということだ。

「中高6年間一貫教育」を知ることが、 より良い学校選択に直結する！

もうひとつは、（受検可能な）公立中高一貫校を志望校＝進学校として考えた過程で、受検生自身と保護者の目が「中高6年間一貫教育」に向けられたことで、「わが子のこれからの教育環境」を考えるうえで、視野が大きく広がったということである。

全国各地に開校している各公立中高一貫校、その中でも「中等教育学校」（完全6年一貫教育校）及び「併設型中学校」（中学校教育課程修了後、原則として無試験で高等学校に進学できる中学校）が開校当初からめざしたことは、それまで私立中高一貫校が実現してきた「中高6年間一貫教育」

思考コードとは？

変換 操作	全体 関係	思考コード		
		変容 3	変容 2	変容 1
複雑 操作	対称性	18 (得点 6) 実倍率 33.3	35 (得点 7) 実倍率 100	68 (得点 7) 実倍率 100
		40 (得点 22) 実倍率 55.0	49 (得点 25) 実倍率 29.4	48 (得点 25) 実倍率 29.4
手順 操作	単純 関係	A	B	C
		知識・理解思考 知識・理解	論理的思考 応用・論理	創造的思考 批判・創造



今回の『ブレイク』掲載「公立中高一貫校レポート」(＃12)でご紹介している茨城県立並木中等教育学校

のメリットやその優位性、成果等を「良い点は見習い、吸収する」という姿勢で私学の培ってきたノウハウを取り入れ、それを公立学校でも実現し、多くの小学生に進路の選択肢として提供することであった。

目的実現のため、公立中高一貫校のほとんどは各地域（学区）のトップあるいは準トップに位置する公立高校に中学校を併設したり、高校募集を廃止して中等教育学校に改編したりして開校された。

そうして開校された公立中高一貫校には、卒業後にはレベルの高い難関あるいは有名大学への合格＝進学を可能にする高度な学習指導と、同時に大いなる進学及び進路実績が期待された。その後、実際に各公立中高一貫校で中高6年間一貫教育を受けた卒業生が、期待を裏切ることのない高い進学及び進路実績をあげていることは誰もが認めるところである。そしてそれは、今後も変わることはないと予想される。このことも公立中高一貫校の一つの魅力、それも大きな魅力の一つである。

当初はこうした高度な教育の実際の水準、高い進路（大学合格）実績等への期待から各地域の公立中高一貫校合格＝進学を考えた小学生及び保護者は、学校説明会や各種公開学校行事等に参加してその教育内容（シラバス・カリキュラム・各種教育プログラム・課外学習・学外での活動等）を実際に自身の目で確認していく中で、「中高6年間一貫教育のメリット及び優位性」についての理解度

が高くなり、それを一つの物差しとして地域の公立中学校や私立中高一貫校と比較検討する視野と視点が拡大したことは想像に難くない。

例えば中学3年間で考えるならば、教科の学習内容の量や進度及び深度、実験・体験やフィールドワーク等に割かれる時間数（機会数）等でも、地域の公立中学校と「中高一貫校」との差は明らかである。また、電子黒板やPC（ノート・デスクトップ）・タブレットの活用等の「ICT教育」の内容や教育施設・設備等においても、地域の公立中学校との差＝内容やスピードの差は顕著であるといえよう。

このような教育のソフト及びハード面での「中高6年間一貫教育ならではの」私立中学校と地域の公立中学校との格差は、公立中高一貫校をも含めた「中高一貫教育校」に保護者の目を引きつけ、それらの学校の教育の在り様を知れば知るほど、保護者はより実感させられることになるのだ。

ここまでお話ししてきたところで、保護者には是非お聞き頂きたいことがある。

それは、わが子＝受験生に合った学校を選択し、受験～合格～進学させて頂きたいということだ。こんなことは当然過ぎることだし、わが子を受検させるからには合格＝進学させたいと考えない保護者はいないとも思う。だからこそである。私立中高一貫校には、各校独自の建学の精神や理念があり、その精神や理念に沿った様々な教育活動が日々展開されている。私立中高一貫校志望の受験生及び保護者は直接間接を問わず、それらに触れ、まずは自分（わが子）が進学するにふさわしい学校が否かの観点で考え、比較し、決定＝志望校としていく。同様のことを、公立中高一貫校を志望校とする受験生及び保護者にもして頂きたいのだ。いうまでもなく、公立中高一貫校は“公立校”である。が、先述した通り公立中高一貫校のほとんどは各地域の公立トップ校及び準トップ校であり歴史もある。また、新し



特集 間近に迫った2020年大学入試改革にも対応する、公立中高一貫校入学者選抜「適性検査」問題を解く力

く創立された公立中高一貫校なら、歴史こそ浅いが、より一層これからの中等教育に対する理念や思いを具現化しやすい環境にあるだろう。そこには先達が営々と築いてきた各校ごとの学びの精神・歴史があり、それを拠り所として、公立校として順守すべき範囲の中で各校独自の教育活動をこれまで展開してきた。いうならば、各校には教育活動に対する各校独自の考え方があり、ノウハウがあり、つまり個性＝違いがあるのだ。だからこそ、受検にあたって、地域に選択可能な公立中高一貫校が複数校あるなら、あらゆる情報を入手し、まずわが子の進学先としてふさわしいか否かを考え、決定してほしい。

次に、各地域の公立中高一貫校の教育目標と、これから開催される公開行事を記すので、是非参考として頂きたい。教育目標は前回の再掲載であり、いずれも抜粋だが、他校についてもホームページ等から確認してほしい。必ずやお役に立つことと思う。

＜教育目標＞

・東京都立小石川中等教育学校

「立志・開拓・創作」の精神を中核に据え、自ら志を立て、自分が進む道を自ら切り拓き、新しい文化を創り出すことのできる人材を育成。

首都圏模試センターの「統一合判模試」の成績表にも「思考コード」の分類による各領域の偏差値が反映されている。



・神奈川県横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校

(教育方針は)「驚きと感動による知の探究」。探求力、創造力、自立力、コミュニケーション能力を備えた、グローバルリーダーたるサイエンスエリートを育てる。

・埼玉県さいたま市立大宮国際中等教育学校

生涯にわたって自ら学び続ける力や、自分の頭で考え抜き、新しい価値を生み出す力など、国際的な視野に立って探求し続ける真の学力を育む。

・千葉県千葉市立稲毛高等学校附属中学校

確かな学力と豊かな心、調和のとれた体力を身につけたグローバルリーダーを育成する。

都・県	学 校 名	種 別	日 時	対 象	備 考
東京都	都立小石川中等教育学校	学校説明会	10月12日(土)10時～・14時30分～ 11月9日(土)10時～・14時30分～	5・6年生の児童 ならびに保護者	要申し込み
神奈川県	横浜市立 横浜サイエンスフロンティア高附属中	志願説明会	11月10日(日)	6年生の児童 ならびに保護者	要日程等確認
埼玉県	さいたま市立 大宮国際中等教育学校	生徒募集要項説明会 授業見学	10月26日(土)9時～・10時30分～ 11月9日・30日(土)9時～・10時30分～	6年生の児童 ならびに保護者	要申し込み
千葉県	千葉県立稲毛高附属中	学校見学会	10月26日(土)		詳細未定 後日HPIにて発表

公立中高一貫校の「適性検査」と多様な 私立中入試で問われる力を「思考コード」 で読み解く

これまでお話ししてきた通り、もともとは公立中高一貫校のみを進学志望校として考えていた受検生及び保護者が、私立中高一貫校にも目を向ける機会を得て、その教育内容や実際に触れることでその良さを知り、それらの私学が実施している（あるいは新設する）「適性検査型（総合型・論述型・合科型・思考力型等の）入試」も併願受験するケースが増加傾向にある。

首都圏中学模試センターの推計では、今春2019年入試で、これら私立中学校の「適性検査型（総合型・論述型・合科型・思考力型入試等を含む）入試」を実施した私立中は「147校」に上り、来春2020年入試ではさらにこれを「20～30校」

首都圏模試センターの「思考コード」で
多様な中学入試の思考のレベルの特徴を知る

首都圏模試も偏差値以外の評価軸

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー 関係	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

上回ることが予想されている。

同時に、これらの私立中学校の「適性検査型入試」はもちろんのこと、それ以外の名称の新しいスタイル・タイプの入試は、いずれもが公立中高一貫校のみの合格＝進学をめざして「適性検査」合格に向けた受験勉強（例えば、塾等で私立中合格に向けた4科目型の受験勉強ではなく、2科目型で受験勉強をしてきたケースも多い）をしてきた小学生や、各種の習い事やスポーツ等に励んできた小

実際の入試や模試の問題（適性検査をはじめ、私立中の適性検査型・総合型入試、思考力テスト）で
主に出題される問題も「思考コード」に当てはめて分類・分析することができる

最難関模試 ⇔ 御三家&難関校

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー 関係	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

思考力テスト

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー 関係	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

統一合判 ⇔ 中学受験スタンダード

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー 関係	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

公立一貫模試 ⇔ 適性検査型・総合型

変換 操作	全体 関係	変容 3	A3	B3	C3
複雑 操作	カテゴリー 関係	複雑 2	A2	B2	C2
手順 操作	単純 関係	単純 1	A1	B1	C1
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造



特集 間近に迫った2020年大学入試改革にも対応する、 公立中高一貫校入学選抜「適性検査」問題を解く力

学生にとっても、「挑戦＝受験しやすい」形態及びコンセプトの入試が、そのほとんどであることにも注目して頂きたい。

実際のところ、今春2019年入試では、これら「147校」もの私立中が実施した「適性検査型入試」には1万名を超える受験生が挑戦した。来春2020年入試では、この受験生がさらに1,000名以上も増加することが予想されている。

ところで、2016年から首都圏中学模試センターの模試に導入され、2017年度からは個々の受験生の成績表にも出力（＝掲載）されるようになった「思考コード」（P6～11ページ）について、ここでご紹介したい。受験生の合格＝進学の夢の実現に向けて、その正確な理解及び活用が必ずやお役に立てるはずだ、と思うからである。

この「思考コード」は、それぞれの模試において出題される個々の問題ごとに受験生に「問われる力」を、この表のように分類し（作問の段階でそれぞれの問題が問う力を、この「思考コード」に

基づいて設計し）、それぞれの領域（升目）の力ごとの正答率や偏差値を算出して、受験生一人ひとりの強みや弱点（＝学習課題）等の学力特性を表す形で成績表にも表現したものだ。

詳しい説明をするには紙面が足りないが、ここでは、例月の「統一合判模試」の問題や、難関私立中の（難易度の高い）入試問題、公立中高一貫校の「適性検査」問題、私立中の「思考力入試」で問われる範囲を示した図を前ページにご紹介しておこう。

比べてご覧頂くと、それぞれの入試（模試）タイプで問われる力の範囲が、かなりの部分で明確に異なっていることをご理解頂くことができるだろう。

例えば、公立中高一貫校の「適性検査」や、私立中の「思考力入試」では、縦の列の「A領域（＝知識・理解）」の力が問われるのではなく、「B領域（＝応用・論理）」や、学校によっては「C領域（＝批判・創造）」の力が問われることになる。

「たとえばどんな問題？」……フランシスコ・ザビエルを題材にした「思考コード」の各領域の出題例

変換 操作	全体 関係	変容 3	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選ぶ年代の古い順に並べなさい	キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたか、200字以内で説明なさい	もし、あなたが、ザビエルのように知らない土地に行き、その土地の人々に何かを伝えようとする場合、どのようにとをしますか。600字以内で答えなさい。
複雑 操作	カテゴリー	複雑 2	ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選べなさい	キリスト教を容認した大名を一人あげ、その大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい	もし、あなたがザビエルだとしたら、布教のために何をしますが、具体的な根拠と共に400字以内で説明しなさい。
手順 操作	単純 関係	単純 1	（ザビエルの写真を見て）この人物の名前を答えなさい？	ザビエルが日本に来た目的は何ですか？50字以内で書きなさい	もし、あなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか。200字以内で説明しなさい。
(数)	(言語)		A 知識・理解思考 知識・理解	B 論理的思考 応用・論理	C 創造的思考 批判・創造

挑戦する受検（受験）生としては、それぞれの入試に挑むための学習の仕方や学力観も、一般的な私立中入試とは異なるものとして理解しておくとうまいだろう。

この「思考コード」と、それぞれの領域にあてはまる出題を、多くの日本人が知っている「フランススコ・ザビエル」を題材として例示したものが前ページの表である。このような形でご覧頂くと、イメージもしやすくなることと思う。

2020年以降の新たな大学入試にも直結する 「適性検査」・「適性検査型」問題を解く力

さらに、「2020年大学入試改革」を節目として大きく変わる今後の大学入試で問われる力を、この首都圏中学模試センターが開発した「思考コード」にあてはめてみると（下図）、文部科学省が示している図と、ぴったりと重なる。

つまり、公立中高一貫校の「適性検査」で出題される問題や、私立中の「思考力入試」を始めとした多様なスタイル・タイプの入試が受検（受験）



2022年に高校募集を停止し、中学募集数を増やす予定の都立両国（写真は今年2月3日の適性検査日）。

生に問う“力”は、取りも直さず現在の受検（受験）生が6年目以降の当事者となる、これからの新たな大学入試で問われる“力”ということになる。

これまでお話ししてきたこと＝意義も理解して頂いた上で、これから受検（受験）本番までの学習や日常の学習を進めて頂くならば、大切なお子様＝受検（受験）生の7年後にやって来る大学入試及び、それから先の社会でも役立つ“力”をまさに現在育てていることが理解でき、そして、それはこれからの学習の励みともなるのではないだろうか。

